

## ＜テントで寝る場合の必需品＞

\*このリストに載っている製品は、「これでなければ駄目だ」というわけではなく、あくまでも一例にすぎません。すでにシュラフやマットなどの購入を済ませた方や、すでに愛用品がある方は、そちらでも一向にかまわないと思います。このリストは、私の個人的な体験に基づいて書かれており、絶対のものではありません。

### 1. テント

中に大きな荷物を置くことを考えると、3人～4人用くらいの大きさのものが使いやすいです。日本のテントのサイズは、一人当たり幅 50～60 センチで計算してあり、2人用と言っても幅が 120 センチくらいしかなかったりします。実際のところ、120 センチの幅だと、1人で寝てちょうどいいくらいです。(荷物をメスホールかトイレの近くに置くのであれば、1人～2人用の小さなタイプでも大丈夫ですが、ブルーカレッジの場合はメスホールに荷物を置けない場合があります。) メーカーに関しては、ダンロップやヨーレイカやモンベルなどの一流メーカーの製品であれば間違いはありませんが、ホームセンターなどで売っている安物でも大丈夫です。(これまでに、いくつかの「3980 円テント」を使用していますが、どれもそこそこに使えました。ただ、安いテントは、ポールにグラスファイバーを使っているのので、耐風性などがいまいちです。)

私の経験から言って、どんなに高いテントでも、長期間使っていると必ず床から水が漏ってきます。持ち運びを重視した登山用の軽量テントは、薄い材料を使っているのでも尚更です。テントを購入するときの注意点は、フライシートと呼ばれる外のシートが、テント全体を完全に覆うタイプを選ぶことです。夏用のテントの中には、フライシートがテントの一部しか覆わないタイプがあり、このタイプは雨に弱く、保温性も低いです。このようなテントでも駄目なわけではないので、すでにこのようなテントを持っており、それを使いたい方は、それを使って下さい。ホームセンターで売っているファミリーキャンプ用の巨大なテントは、持ち運びには向いておらず、設営も大変なので、やめたほうがいいでしょう。テントの中で立てるだけの快適な居住空間がどうしても欲しい方は、苦勞して持って行って下さい。(車でやって来ているアメリカ人は、このような巨大なテントを使っていますが)

また、設営に関しては、ポールと本体をクリップで留めるタイプのほうが、圧倒的に設営が簡単です。ポールをスリーブに通すタイプだと、設営にかなりの力を要するものもありますが、クリップ式(吊り下げ式)であれば、女性でも簡単に設営できます。

以下に、日本から持っていくことを想定した軽量なお勧めテントをいくつか挙げておきます。(※テントを購入する際は、室内の大きさなどをよく調べた上で購入して下さい)

- 「ハーフムーン3」(シェラデザインズ、3人用、実売価格 2.1～3 万円前後、クリップ式、総重量 3.05 kg) シェラデザインズのハーフムーンは、軽量で設営が簡単なため、ライダーやチャリダーの間でかなりの人気があります。以前はもっと小さなサイズしかありませんでしたが、最近、大きなサイズが出たようです。オプションとして、テントの底に敷く「フットプリント」なるものが用意されていますが、ブルーシートでも十分です。値段は店によって開きがありますが、下記の店が比較的安いです。

<http://cascadeloop.net/?pid=2332386>

- ・「ツーリングテント・R-324」(ダンロップ、3人用、実売価格2万円前後、クリップ式、総重量3.7kg) ダンロップは登山用のテントを作っているメーカーで、このテントも信頼できます。このRシリーズは、ダンロップの中では最も安価なシリーズです。
- ・「プロモンテ K-405」(プロモンテ、4人用、実売価格3～3.4万円前後、クリップ式、総重量3.76kg) プロモンテは、要するにダンロップのことです。以前はこのテントは、ダンロップの名で売られていました。「ハーフムーン3」や「R-324」よりも室内が広くて快適です。

## 2. 冬用のシュラフ(寝袋) + α

持ち運びのことを考えると、中綿が羽毛のマミー型シュラフが軽くていいです。羽毛製品は、重さも軽く、コンパクトになります。もちろん、中綿が化学繊維のものでも大丈夫ですが、こちらはダウンに比べて重くなり、収納サイズも大きくなります。多少高くなりますが、耐用温度ができるだけ低いものを選んだほうがいいでしょう。メーカーが発表している「使用温度」は、あまり当てになりません。使用温度が-25℃の製品を使っても、シュラフだけだと寒いこともあります。メーカーによっては、「快適睡眠温度」となっているところもあり、選ぶ側にとっては難しいところです。基本的には、「冬山用」となっているものを選んで下さい。実際に使ってみて寝袋だけだと寒い場合、フリースの上下などの暖かい服を着たり、靴下を履いたり、暖かめのインナーシートなどを併用したりして温度を調節します。

インナーシートは、寝袋の汚れを防止したり、保温性を上げたりする目的で使います。ダウン製品は洗濯が面倒なので、汚さないに越したことはありません。長く使って汚れてきた場合、登山用品店に行きダウン専用の洗剤を購入し、お風呂の浴槽などを使って洗濯します。(＊ダウンの寝袋の洗濯は結構、面倒です。洗濯後に保温力が大幅に低下してしまう場合もあるので、注意して下さい。) モンベルの「ウォームアップシート」は、普通のコットン製のインナーシートよりもいくらか暖かく、肌触りもいいです。しかし、チャックが横についていないため、人によっては使いにくいかもしれません。イスカの「ライナーSZ」は、使ったことはありませんが、なかなか使いやすそうです。

お勧めのシュラフをいくつか挙げておきます。(＊以下のシュラフはすべて冬用です。夏のイベントに参加する場合は、もっと安くて中綿の少ない製品でも大丈夫です。)

- ・「スーパーストレッチ・ダウンハガー#1」(モンベル、実売価格2万5千円前後) 中綿がダウンでありながら、コストパフォーマンスに優れています。
- ・「スーパーストレッチ・ダウンハガー#0」(モンベル、実売価格2万8千円前後) #1よりも中綿が多く、暖かい分、重さも増えます。
- ・「スーパーストレッチ・バロウバッグ#1」(モンベル、実売価格1万5千円前後) 中綿が化学繊維で値段がダウンよりも安いですが、ダウン製品よりも重くなり、収納サイズも大きくなります。
- ・「ダウンシュラフ デナリ」(イスカ、実売価格2万8千円前後) このメーカーはシュ

ラフ関係の製品をかなり出しており、信頼できるメーカーのひとつです。

- ・ 「**アルファライト 1300**」(イスカ、実売価格 1 万 6 千円前後)イスカの化学繊維モデル。ダウン製品よりもかさばりますが、値段の割にはかなり暖かいです。

他にもたくさんの製品があり、「上記の製品でなければならない」というわけではありません。同じダウン製品でも、一般的に言って、暖かいシュラフほどダウンの使用量が多いので、値段が高くなり、重くなります。上記のモデルよりもさらに暖かいモデルもありますが、持ち運びのことなども考慮した上で、選んで下さい。ダウン製品か、化学繊維製品か、選択に迷うところですが、以下にそれぞれの特徴を書いておきます。

#### 【ダウン製品の特徴】

- 軽い
- コンパクトに収納できる
- ×洗濯など手入れが面倒
- ×濡れた場合や湿気が多い環境で使用した場合に、保温力が著しく低下する
- ×化学繊維製品よりも値段が高い

#### 【化学繊維製品の特徴】

- ×同程度の保温力ならば、一般的にダウンよりも重い
- ×まるめたときに、ダウンよりもかさばる
- 手入れが比較的簡単
- 濡れた場合や湿気が多い環境で使用した場合にも、保温力がそれほど下がらない
- ダウン製品よりも安い

1 週間以上の長期間のイベントで使用する場合、湿気などの影響もあってダウン製品は徐々に保温力が下がってきます。(特に、イエルクは冬が雨季なので、尚更です。) その点、化学繊維製品であれば、湿気の多い環境で長期間使用しても保温力はそれほど下がりません。それゆえ、長期のテント泊の場合、むしろ化学繊維製品のほうが向いていると言えるかもしれません。とは言っても、ダウン製品には化学繊維製品にはない利点があるので、よく考えた上で購入して下さい。

### 3. スリーピングマット

アリーナで寝るにしても、テントで寝るにしても、イエルクでのイベントに参加する場合、スリーピングマットが必要になります。現在発売されている製品の中で、総合的に見て、最も優れていると思われるのは、やはりサーマレスト (旧カスケードデザイン) の製品でしょうか。しかしながら、最近はモンベルやイスカなどの国内メーカーもかなり優れた製品を出しているのです。そちらでも十分だと思います。(サーマレストの製品は、アメリカで買えばかなり安く買えます。) 以下に、いくつかお勧めの製品を挙げておきます。

- ・ 「**サーマレスト プロライト 3**」(サーマレスト、1 万 5 千円前後) 私はこの製品の前

のモデルである「ウルトラライト」というのを使っているのですが、この「プロライト 3」は、「ウルトラライト」よりもさらに軽量化され、重さは 570 グラムです。183 センチのロングサイズでありながら、この重さは驚異的です。（厚さは 2.5 センチで、人によっては、長期のテント泊での使用にはやや薄すぎると感じるかもしれません。しかし、慣れれば快適に眠れます。）この「サーマレスト・シリーズ」は、軽量コンパクトでありながら耐久性にも優れており、バックパッカーや登山好きの人間の間で、絶大な人気を誇っています。ただ、サーマレストの空気注入式マットは、日本で買うと値段が高めです。

- ・ 「U. L. コンフォートシステムパッド 180」(モンベル、1 万円前後) 最近、モンベルから発売された軽量コンパクトなマットで、「プロライト 3」とほぼ同じ重量、サイズの製品です。(厚さは 2.5 センチ)
- ・ 「サーマレスト Zライト」(サーマレスト、7 千円前後) 183 センチのロングサイズでありながら、重さは 430 グラムと軽いです。ただ、Zライトは空気注入式ではないので、プロライトよりもかさばります。厚さも 2 センチとやや薄めに作られています。
- ・ 「ウルトラライトマットレス 180」(イスカ、7 千円前後) 180 センチのロングサイズで、重さは 600 グラム。厚さは 2 センチ。空気注入式なので、コンパクトに収納できます。

\*上記の製品の他に、いわゆる「銀マット」と呼ばれるウレタン製の安いマットもあります。「銀マット」はかなり安いですが、日本から持って行くにはかなりかさばります。銀マットは、登山用品店やホームセンターなどで購入できます。あるいは、近くのホームセンターなどで、「ヨガマット」のような安価な製品を購入するとう手もあります。「ヨガマット」の類はかなり薄めですが、アリーナの床にはカーペット(のようなもの)が敷いてあるので、アリーナ内で使うのであれば、これでも大丈夫かもしれません。しかし、テントでの使用の場合、これだときつい可能性があります。

#### 4. テントマット

どんなに高価なテントでも、何日か連続して使っていると、底から若干の水が漏ってきます。そのため、テントの中に防水のマットを敷く必要があります。最も安上がりな方法は、テントのサイズに合ったブルーシートをホームセンターなどで購入し、それをテントマットとして使用することです。ブルーシートというのは、花見やピクニックなどで皆さんが使っている青いシートです。キャンプ用品店で、ウレタン製のテントマットを購入するのもいいでしょう。値段は、100×200 センチくらいのものが千円ちょっとくらいです。4 人用のテントの場合、このサイズのマットが 2 枚は必要になります。

テントによっては、「ボトムシート」(グランドシートまたはフットプリント)と呼ばれるシートをテントの下に敷くことを奨励している製品もあり、テントのサイズに合ったボトムシートをオプションとして用意しているものもあります。しかし、私の経験上、テントの「外に」シートを敷いて防水性を上げるよりも、テントの「中に」シートを敷く方法のほうがお勧めです。というのも、テントの中にシートを敷いたほうが、シートの汚れが少なく、後片付けするときに楽だからです。防水性の面では、シートを中に敷こうと、外

に敷こうと、それほど変わりません。

## 5. 懐中電灯

夜になるとテントの中は暗くなるので、懐中電灯が必要になります。最近では「LED」の電球を使ったタイプが普及し始めていますが、LEDを使用したもののほうが圧倒的に電池が長持ちします。(私が使用しているものは、単4電池を3本使用するタイプで、電池寿命は約70時間です。これだけ電池が長持ちするのであれば、長いイベントでも電池交換なしで済ませることが可能です。)

ホームセンターやディスカウントショップなどに行けば、LED製品でもかなり安く買えます。持ち運びのことを考えると、単3電池か単4電池を使用するタイプがいいでしょう。(電池を必要としない「自力発電式」のものもありますが、発電効率のいいものは、概して大きさが大きめです。)

懐中電灯は、紐などを付けて、テントの天井からぶら下げられるようにしておくと便利です。多くのテントは、天井に小さなリング状の紐が付いています。この部分にホームセンターで売っているS字フックを付け、懐中電灯の取っ手の先端にリング状の紐を付ければ、懐中電灯をテントの天井に簡単につるすことができます。(懐中電灯をテントの天井に固定してしまうと、夜、外で使うときに困るので、着脱できるようにしておくと便利です。)

テントの天井に付いているこのリングは何かと便利なもので、ここに少し大きめのリング状の紐を付けておくと、タオルをひっかけておくこともできます。雨が連続してタオルを外で乾かすことができない場合にも、このようなリングが案外、役に立ちます。あるいは、S字フックだけでも、タオルを引っ掛けることもできるので、S字フックを1つ持つて行くと便利です。

懐中電灯は、頭に装着するタイプもなかなか便利です。このタイプも、ホームセンターなどで安く入手できます。

## 6. 洗濯バサミ (数個)

テントの外でタオルを乾かすときや、テントの入口を開いた状態にしておくとときなど、洗濯バサミがあると何かと便利です。日本からいくつか持っていくといいでしょう。